

国立中興大学 長期派遣留学帰国報告

国際食料情報学部
国際農業開発学科 3 年
和田榛名

私は大学 2 年生の後期から、3 年生の前期までの 1 年間、台湾の国立中興大学にて留学をしていました。今まで自分は中国にしか海外へ行ったことがなく、さらにそれは家族と一緒にだったので、今回の留学は自分にとって大きな機転となるものでした。

私が台湾に行く前に台湾に持っていた印象といえば、ノスタルジック、活気のある街並み、美味しいご飯といったようなものでした。実際に 1 年間台湾で過ごしてみて、私の考えていたこのイメージとリアルな台湾は特に乖離はなく、充実した留学生活を送れたように感じます。

ただ、一つだけ台湾に行って衝撃を受けたことがあります。それは日本の文化に大きく影響を受けているということです。台湾人のほとんどが日本の有名な漫画、アニメを見たことがあったり、くら寿司や大戸屋、無印用品に気軽に行けたりするだけでなく、台湾の博物館に行くと必ず日本統治時代の説明が含まれていたり、博物館に行かなくとも、日本統治時代に建てられた建物があらゆるところにまだまだ残っています。

現地での生活について、自分は女子寮に住んで学校に通っていました。寮は 4 人一部屋になっており、勉強机・ベッドがある部屋と、シャワー室・トイレ・洗面台のある部屋の二部屋に分かれています。個別の部屋があるわけではなく、オープンな寮でした。ほかの棟にはジムやキッチン、徒歩圏内にスーパーもあるので生活には困りません。スーパーには日本の食べ物、製品も多く並んでいるので、日本の食べ物が恋しくなれば、割高ではありますがいつでも手に入れることができます。さらに、台湾は外食文化であるため、基本学食を食べたり、寮の近くにご飯屋さんが連なっている道があったので、そこでテイクアウトしたりしていました。

授業について、私の所属していた学部は国際農業学部といって、台湾の生徒と海外からの生徒が半々のクラスでした。授業はすべて英語で行われ、テストやプレゼンテーションなどもすべて英語です。周りの生徒は英語がとても流暢なので、最初は追いつかなければいけないと焦りましたが、周りのレベルの高さに感化されて自分も頑張れました。

授業でもフィールドトリップと言って、大学からバスで 1 時間くらいの農場を見学したり、台湾でリアルな農業を自らの目で見たり、実際に日本では簡単に手に入らないような野菜を育てられたりする機会が多く、価値のある授業をたくさん受けることができました。

キャンパスはとても広く、敷地内に池もあり、農大以上に自然を感じるキャンパスでした。キャンパス内には学食、コンビニ、図書館、本屋、カフェ、運動場など、学生生活を充実させられる施設が多く整っていました。部活やサークルもたくさんあり、中でも驚いたのが「バーサークル」です。サークル員の方が、本格的なお酒、道具を使い、カクテルを作ってくださいます。定期的に行われるイベントにて、カクテルを楽しむことができます。

中興大学では頻繁に留学生向けのパーティーが開催されるため、他の国からの留学生と交流することができるだけでなく、あまり現地の生徒と関わる機会の少ない交換留学生でも友達をつくることのできる心配はいりません。台湾でできた友人とは、夜市に行ったり、ピクニックをしたりしました。さらに、授業後には友達と一緒に Lalaport に行って夕ご飯を食べたり、近くの火鍋屋さんに行ったりしました。台湾の方はとてもアクティブで、夜中でもツーリングに出かけたり、カラオケで盛り上がったりしており、たとえ3時でもコンビニにはいつも何人かお客さんがいるほどでした。週末についても、多くの台湾人は基本外出してショッピングを楽しんでいるため、土日は特にショッピングセンターが混み合っていました。台中駅周辺はショッピングモール以外にも大きいお寺や公園、ノスタルジックな街並みがあって面白いので、私はその付近をうろうろ散歩したり、お気に入りの豆花屋さんを見つけてゆっくり過ごしたりしていました。ノスタルジックな街並みというのも、台湾にはいたるところに日本統治時代のなごりがあり、台中市内にも帝国製糖工場、旧市役所、旧台中駅など、歴史建築物や文化が多く残っています。長期休みには台中から出て高雄、台南などの場所を訪れました。特に南のほうは台湾のお寺がほかの場所と比べて比較的多く存在していたり、いたるところに大きい市場があったりします。台北も楽しいけれど、台湾をもっと感じたいならぜひ来てほしいといえる場所でした。

台湾の公用語は様々ありますが、基本中国語を使っています。そのため、授業では英語、生活では中国語というような生活を1年過ごしました。台湾でも、行動力があれば自分の望むことを学習できますし、努力すれば英語も中国語もある程度の資格が取れるまで上達します。さらに、同じアジア圏であるため文化もそこまで変わらず、もし日本が恋しくなっても、いつでも日本の製品をスーパーで購入することも可能です。

留学がしたい、でもどこの国がいいかわからないという方にはぜひ台湾への留学をお勧めします。

